



TITLE:

観測帳

AUTHOR(S):

中村, 要

CITATION:

中村, 要. 観測帳. 天界 1932, 12(132): 153-153

ISSUE DATE:

1932-03-25

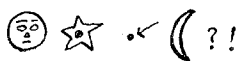
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161897>

RIGHT:



観 測 帳



花山天文臺 中 村 要

彗星 2月には例年雪模様の爲に天氣が悪いが、今年も月始めを除いて寫眞撮影の出来る日は無かつた。例年3月中頃からよくなる筈。従つてライヴス彗星も觀測の見込みがなくなつてしまつた。

小遊星イシス(42) Isis は4月19日衝になる。位置は1925年分點で

13時 47.5分+1° 44'

日々運動 $-0.95分+3.3分$ 光度10.6等
イシスは 1856年5月23日 オックスフォード天文臺でボグソンが発見した。

1932年 AA 1月1日早々ハイデルベルヒ天文臺のラルフ氏は双子座で13.5等の1932年最初の新小遊星を発見した。此の星は1月10日と12日に觀測されたが1月6日此の附近を筆者の撮影しておいた原板に此の星の像がみつかつた。

寫眞觀測と立體鏡

乾板上で變光星或は小遊星の様な移動した天體を手早く檢出するには、時を異にして撮影した原板二枚を交互に比較するのでなしに、立體鏡にかけて二枚の原板を一枚づゝ左右の眼で見ると、變化のあるものや移動したものは浮び上つて見えるから割合に早く檢出出来る。此の際に左右の原板を交互に照すと變光したものは消長し移動したものは躍つて見えるから尙ほ更早く檢出される。此の装置をしたものを閃光比較鏡 Blinkcomparator と稱し、近年天體觀測に盛んに使はれる。多數の變光星や恒星の固有運動はこれで見出すのである。後者はツアイスの製品で一萬圓以上もする精密品であつて測定も出来る。筆者の手許に手札板用の手製のものがある。

ヤーキス天文臺の小遊星觀測 米国ヤーキス天文臺では 1922 年あたりから Van Biesbroeck 氏が主となつて小遊星觀測を始めた。使用器械は有名な60センチ反射鏡で引續き二枚撮影し Blinkcomparator で檢出して居る。20分露出すれば約16等星の小遊星が撮影し得る由である。原板の測定には三箇の比較星を使つて居る。近年は以前程熱心ではない。今までに約十箇の軌道の確定したものを發見した。

研磨室より。 改發氏の13センチ寫眞鏡玉は2月末着手して 3月10日頃までに前玉を、3月末までに後玉を完成の豫定、8面磨くから大仕事である。4月早々には20センチ鏡を一個磨く豫定である。器械が完備したから依頼を受けたものは全部引受けて居る。

11センチ鏡玉の磨直し。 自作の11センチ寫眞レンズは第二面の極端なファイギュアリングの際に誤つて廻轉面を亂し其の序に寫野の像が對照を缺いて居たが2月19、20日の二日に第二面を磨り直し、再ファイギュアリングを行つた。これで満足に直つた。

筆者の天文臺に於ける仕事は、 30センチ屈折鏡で行ふ赤道儀觀測であつて眼視と寫眞と兩方兼ねて居る。彗星の方を主にして居るので眼視的に測微觀測をする外附屬のF3鏡で彗星の尾を觀測する。彗星は觀測するものがなくて時々暇な事が多いので小遊星の方を從にして11センチ寫眞レンズで位置及び光度の觀測して居る。11センチ玉は自作のもので13等以下のものが觀測出来兼ねるので能率が少々悪いが廣角の點ではシメイス天文臺の12センチテッサー玉と等しい仕事をして居る。推算誤差の大きいもの或は新小遊星等は眼視的に測微觀測をする。觀測帳の記事は以上の仕事から産れるものである。

何れも移動するものは隨機應變の處置を要するもので、花山で開業早々は仲々むづかしかつたが近頃大分なれた。